



日本シティズンシップ教育フォーラム (J-CEF)

シティズンシップ教育研究大会 2021

第二次案内 (プログラム)

このたび、10月3日(日)に、「研究」に力点を置いた交流と研究発展に向けた場として、「シティズンシップ教育研究大会 2021」を開催する運びとなりました。

「シティズンシップ教育研究大会」は、「シティズンシップ教育」をキーワードに、多様なディシプリンの垣根を越えた知見交流を通じて、これまでの自らの研究のあり方を振り返り、今後のシティズンシップ教育研究のありようを共に考えるプラットフォームとして、2019年度から開催してまいりました。第1回・第2回の研究大会では、政治学・社会学・教育学・心理学・哲学・教育史など多様なバックグラウンドの研究者はもちろんのこと、現職教員や大学院生の参加もありました。

今年度も、第1回・第2回の研究大会に引き続き、多様な研究者を繋ぐ場となればと考えています。また、今年度は昨年度に引き続き、オンライン開催となっています。参加者の皆さまの安全を第一に考えてこうした形態をとることに致しましたが、昨年同様にオンラインであることのメリットを生かし、地理的に離れた場所にある方々を繋ぐ契機になればと考えています。自由研究発表の発表者の皆さまには、発表申し込みの際に、自分の研究が該当する「キーワード」を選択して頂きます。大会実行委員会としては、これらのキーワードの情報をもとに、発表者同士が研究の多様性を感じながら、同時に共通する問題意識の接点を生み出せるように、分科会を編成していく予定です。

また、今回のシンポジウムのテーマは、「『複数性』から問うシティズンシップ教育—日本における実践課題を考える—」としました。日本の研究者の想定するシティズンシップ教育の市民像が、マジョリティの文化や価値観を前提としたものになる現実はずれず存在しています。日本の実践や研究に無自覚のうちに埋め込まれてきた様々な前提を顕在化させ、問い直しながら、「複数性」を見出ししていく必要があります。そのような問題意識からのテーマ設定となっています。

この分野の研究に長く取り組まれてきた方々のみならず、大学院生や学部生の方を含む若手の方や、新たに関心を持たれた方にも是非積極的にお越しいただき、シティズンシップ教育研究をともに切り拓いていくプラットフォームとなれば幸いです。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

1. 概要

- 日時：2021年10月3日(日) 10時～17時 (任意参加のアフタートークは18時まで)
- 会場：オンライン開催 (参加者の方々に zoom ミーティングルームの URL を共有します)
- 対象：シティズンシップ教育研究に関心をもつ方々なら、誰も参加できます。

若手研究者・院生・学部生の参加を歓迎いたします。

■主催：日本シティズンシップ教育フォーラム（J-CEF）

2. 全体スケジュール

時間	内容
10:00～12:00	シンポジウム 「『複数性』から問うシティズンシップ教育—日本における実践課題を考える—」
13:15～14:45	自由研究発表セッション①（分科会ごとでの実施）
15:30～17:00	自由研究発表セッション②（分科会ごとでの実施）
17:00～18:00	アフタートーク（任意参加）

3. 参加費

無料（会員・非会員共通）

4. 研究大会への参加方法

参加者登録をした方に、シンポジウム・自由研究発表の zoom ミーティングルームにアクセスするための情報（URL, ミーティング ID, パスワード）を事前にメールでお知らせいたします。参加を希望される方は 2021 年 9 月 30 日（木）までに、日本シティズンシップ教育フォーラム（J-CEF）ウェブサイト（<http://jcef.jp>）の案内に従って、オンラインでお申し込みください。

5. 大会企画

今回の研究大会では、二種類のセッションで企画を構成します。

(1)シンポジウム

参加者が一同に会し、共にシティズンシップ教育研究について考えます。

(2)自由研究発表セッション

発表者の研究成果について口頭で発表し、参加者と質疑応答やディスカッションを行います。

▶この度、自由研究発表セッションの発表者を募集いたします。

(1)シンポジウム

■テーマ：「複数性」から問うシティズンシップ教育 —日本における実践課題を考える—

■趣旨

「複数性」と聞いて何が思い浮かぶだろうか。アーレントによれば、「複数性」とは「全ての政治生活の必要条件であるばかりか、最大の条件」である。これは、異なる人々の存在、すなわち人間の複数性という当たり前の事実を抛りどころとすることの重要性を指し示している。

またそれは、自身の行為と意見がだれかによって受け止められ応答されるという関係性の中に、デモクラシーの源泉があることを含意している。

ところが、社会はおしなべて特定のマジョリティの価値観や文化を前提として構築されている。学校教育もまた例外ではなく、マジョリティの価値観や世界観をもとにした「公的に学ばれるべき知識」(official knowledge)や「隠れたカリキュラム」を通じた知識の伝達と規範形成の機能を果たしてきた。このような知識や規範は「普通」であり「中立的」なものと捉えられた上で国民形成に用いられてきた。

こうした特定の価値観や知識、世界観を共有した「われわれ」というマジョリティ性を問うことにより、シティズンシップ教育実践における「複数性」が浮かび上がってこないだろうか。本シンポジウムでは、民主的で公正な社会をめざす教育のあり方に取り組んできた3名の研究者を招き、日本におけるシティズンシップ教育実践の課題と可能性を考えたい。

■キーワード：複数性、社会正義、ジェンダー、かくれたカリキュラム、マジョリティ性、人権、ケアの倫理、文化の重層性

■パネリスト (五十音順)：

孫美幸さん (文教大学)

寺町晋哉さん (宮崎公立大学)

陳思聡さん (九州大学)

■コーディネーター：北山夕華さん (大阪大学)、橋崎頼子さん (奈良教育大学)

(2)自由研究発表セッション プログラム

自由研究発表発表セッション① [13:15~14:45]

※1人(グループ) 20分発表・10分質疑

[第1-1分科会]

司会：堀本麻由子さん (東洋大学)

副司会：古田雄一さん (大阪国際大学短期大学部)

(1)高校生におけるノンフォーマル・エデュケーションでの「シティズンシップ教育」の有用性—#お
かやま JKnote に参画する高校生へのインタビューより—

野村泰介さん (岡山大学大学院)

(2)若者政策は誰の手に？—日欧比較研究が明らかにした日本の若者の社会参画政策の課題—

両角達平さん (国立青少年教育振興機構)

(3)コロナ禍にみるシティズンシップ教育と教育機関ハブ化の可能性—日本とスイスの高校生の自粛生活からの考察—

豊山実聡さん（東京大学教育学部附属中等教育学校）

[第 1-2 分科会]

司会：長沼豊さん（学習院大学）

副司会：黒崎洋介さん（神奈川県立瀬谷西高等学校）

(1)生徒による民主的な活動実践と協働する社会科単元の開発—教科教育と教科外教育の連携を目指して

奥村尚さん（独立研究者） 高見史織さん（広島大学大学院）

(2)市民性育成を目指した義務教育段階における「話し合い」の一考察—国語科と社会科に着目して—
長谷浩也さん（岡山大学大学院）

(3)ジャーナリズム教育におけるシティズンシップの可能性—「地方の時代」映像祭・高校生部門の事例から—

小玉明依さん（東京大学大学院）

[第 1-3 分科会]

司会：南浦涼介さん（東京学芸大学）

副司会：岡田泰孝さん（お茶の水女子大学附属小学校）

(1)議論を用いたシティズンシップ教育における課題とその要因—「研究における子ども観」から見る社会科議論型学習を事例に—

田中峻斗さん（広島大学大学院）

(2)議論教育の可能性—多声性を重視したバフチンの対話理論を手がかりに—

久島 玲さん（東京大学大学院）

(3)外国人技能実習生の問題を捉える理論的な枠組み—市民性形成を目指す日本語教育の視点から

HOANG NGOC BICH TRAN さん（岡山大学大学院）

[第 1-4 分科会]

司会：川口広美さん（広島大学）

副司会：水山光春さん（京都橘大学）

(1)中国における市民性教育実践に関する実証的研究の構想—道徳授業における教師の働きかけに注目して—

林イク州さん（岡山大学大学院）

(2)主権者教育においてアドボカシーを題材とした授業の提案—クリック・レポートにおける政治リテラシーの育成を目指して—

郡司日奈乃さん（千葉大学大学院）

(3)日本と韓国の小学校社会科における「グローバル・シティズンシップ教育」の取り組みと課題

玄在均さん（筑波大学大学院）

[第 1-5 分科会]

司会：若槻健さん（関西大学）

副司会：市川享子さん（東海大学）

(1)反学校文化はいかなる意味において政治的か—ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』の読み直しを通じて—

石毛ゆかさん（東京大学大学院）

(2)同僚教師同士のメンタリング方法の提案—同僚社会科教師へのメンタリングを通して—

山下博暢さん（大阪府立農芸高校・大阪教育大学大学院）

(3)困難校で拒否される傾向にある主権者教育—何が原因なのか、どうすれば良いのか—

渡部竜也さん(東京学芸大学)

[第 1-6 分科会]

司会：唐木清志さん（筑波大学）

副司会：藤枝聡さん（立教大学）

(1)大学のカリキュラムの国際化ーグローバル・シティズンシップ育成の観点からー

杉野知恵さん（お茶の水女子大学大学院）

(2)ブラジルのアファーマティブ・アクションに関する研究ー教育機会の均等を目指した政策における包摂と排除ー

山脇佳さん（大阪大学大学院）

(3)「市民育成者」育成に関わる大学教員たちの声ー教職大学院科目「社会科の本質と目標・内容構成」に関する聞き取り調査をもとにー

後藤賢次郎さん（山梨大学）

自由研究発表発表セッション② [15:30～17:00]

※1人（グループ）20分発表・10分質疑

[第2-1分科会]

司会：桑原敏典さん（岡山大学）

副司会：林大介さん（浦和大学）

(1)ゲーミフィケーションによるシティズンシップ教育の実践ー地域におけるジブンゴト体感プログラム SIMulation Morioka 2040 による人材育成ー

山崎翔さん（ドリーム・シード・プロジェクト）

(2)生徒参加による校則・ルール見直しの活動序盤にみる意義と課題ー2021年度「ルールメイカー育成プロジェクト」の事例からー

起塚拓志さん（認定NPO法人カタリバ）、奥村尚さん（独立研究者）

久保園梓さん（筑波大学）、高見史織さん（広島大学大学院）

(3)指導をめぐる児童生徒の認識やその影響ー分析的オートエスノグラフィーとインタビュー調査を通してー

藤阪希海さん（大阪大学）

[第 2-2 分科会]

司会：水山光春さん（京都橘大学）

副司会：橋崎頼子さん(奈良教育大学)

(1)グローバル・シティズンシップ教育プログラムにおけるリーダーシップ育成の成果と意味に関する
研究構想—SGH 校の取組の分析と卒業生に対する調査を中心に—
高雨さん（岡山大学大学院）

(2)グローバル・シティズンシップ教育における「人種」「民族」—「人種化」する／されるを巡って—
—
東優也さん（海老名市立東柏ヶ谷小学校）

(3) 間文化的シティズンシップを育む日韓合同遠隔授業の成果と課題—民主的文化のための能力の観点から—
森山新さん（お茶の水女子大学）

[第 2-3 分科会]

司会：北山夕華さん（大阪大学）

副司会：川中大輔さん（龍谷大学）

(1)「他者を尊重する」とはいかなる経験か？—子どもたちの「再帰性を放棄する」実践に着目して—
桑田湧也さん（京都大学大学院）

(2)地域社会の教育力の特質と課題に関する事例研究—岡山市内の NPO 法人による子育て支援を事例として—
謝芯怡さん（岡山大学大学院）

(3)社会参加活動を通じた市民としての学び—自主夜間中学におけるスタッフの意識と実践共同体の生成に着目して—
和泉なおこさん（筑波大学大学院）

[第 2-4 分科会]

司会：杉浦真理さん（立命館宇治中学・高等学校）

副司会：古野香織さん（認定 NPO 法人カタリバ）

(1)社会参加学習の意味と効果に関する研究構想—学習者のビリーフ形成に関する調査研究を中心に
史鵬宇さん（岡山大学大学院）

(2)探究を見据えた新科目「公共」のカリキュラム開発—熟議民主主義を活用した授業モデルによって
探究の質を高める—
日下秀人さん（神奈川県立向の岡工業高等学校）

(3)自己と他者のジェンダー・ステレオタイプを可視化する中学校地理単元の開発—「寛容性・アンチ
バイアス教育のためのフレームワーク」を理論的根拠として—
玉井慎也さん（広島大学大学院）

[第 2-5 分科会]

司会：川口広美さん（広島大学）

副司会：小玉重夫さん（東京大学）

(1)イングランドのシティズンシップ教育カリキュラムにおける「アイデンティティと多様性」の認識
の変遷—2013 年カリキュラム改訂後に着目して—
松山美華さん（筑波大学大学院）

(2)経験としての「考える力」—ジョルジョ・アガンベンにおける「思考」概念の検討を通して—
寺道亮信さん（東京大学大学院）

(3)世界志向の教育がもたらす政治的空間—ガート・ビースタのアーレント思想の受容を通して—
中野孝太さん（九州大学大学院）

[第 2-6 分科会]

司会：黒崎洋介さん（神奈川県立瀬谷西高等学校）

副司会：古田雄一さん（大阪国際大学短期大学部）

(1)我が国の主権者教育実践研究の特質と課題—学校と地域との連携を視点として—
山田凧紗さん（岡山大学大学院）

(2)ESD for 2030 チェンジエージェントのための ESD とシチズンシップ教育—自分の将来と社会の未来を統合的に考え、社会に参画し、デザインする—

長岡素彦さん（一般社団法人 地域連携プラットフォーム）

(3)政治参加への見方の転換をめざす高等学校公民的分野の単元開発—単元「投票は必ずしも良い政治参加といえるのか」の場合—

久保美奈さん（広島大学大学院）、小栗優貴さん（広島大学大学院）

(3)アフタートークについて

17 時～18 時には任意参加のアフタートークを実施します。アフタートークでは、テーマ別に話題共有できる複数の部屋を用意します。設定する部屋の数・内容に関しては、参加申し込みの際に、参加申込者からアイデアをご記入（任意）していただき、記入状況を考慮に入れて、実行委員が最終決定する予定です。

6. 「シチズンシップ教育研究大会 2021」実行委員 （五十音順）

唐木清志（筑波大学人間系教授）

川口広美（広島大学人間社会学研究科准教授）

川中大輔（龍谷大学社会学部准教授）

北山夕華（大阪大学大学院人間科学研究科准教授）

斉藤仁一朗（東海大学教職資格センター講師）

橋崎頼子（奈良教育大学教育学部准教授）

古田雄一（大阪国際大学短期大学部准教授）

古野香織（認定 NPO 法人カタリバ）

7. 「シチズンシップ教育研究大会 2021」シンポジウム実行委員 （五十音順）

北山夕華（大阪大学大学院人間科学研究科准教授）

橋崎頼子（奈良教育大学教育学部准教授）

8. お問い合わせ先

日本シチズンシップ教育フォーラム事務局

E-mail : info@jcef.jp（担当：川中）

以上